

3 「復興・防災マップ」の取組

実践協力校：石巻市立大谷地小学校

石巻市立桃生小学校

石巻市立万石浦中学校



復興・防災マップの取組

石巻市立大谷地小学校

1 ねらい

- ・自転車通学の中で危険箇所を発見・共有し、児童の危険予知力を高める。
- ・縦割り班活動を通して高学年のリーダーシップを育成し、低学年の安全意識を育てる。
- ・家庭や地域と連携し、地区全体の防災意識向上を図る。
- ・WEBでも閲覧できるようにし、防災意識の共有と継続的な改善を可能にする。

2 テーマ

『地域とつなぐ・つながる復興・防災マップ ～広がれ!大谷地の未来～』

3 指導時数

3年生：5時間 4年生：15時間 5年生：10時間 6年生：10時間

4 指導の流れ

段階	主な学習活動【学年 時数】※未表記はその他の教科・領域
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○災害について知っていることを話し合う。 ○予想される大谷地の災害について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・沢田山避難訓練（全学年） 児童が暮らす12行政区長にも参加の協力をいただき、顔を合わせることで安心感や連携の土台を作る。 ○地域の地形・特徴・災害特性から、誰のためのどんなマップを作りたいかを話し合う。【4～6年生・2時間】
深める	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の危険箇所の共有と可視化 <ul style="list-style-type: none"> ・登校班ごとの自転車通学による地域の危険箇所の発見（登下校時） Google フォームの活用【4～6年生・R5より通年】 ○河川と水害への理解を深める学習 <ul style="list-style-type: none"> ・北上川下流河川事務所出前授業 「マイタイムラインを作ろう」7月3日（木） 【5年生・1時間】 ・浸水時の避難行動の改善・修正 「マイタイムラインのブラッシュアップ」学習 9月10日（水）【5・6年生・1時間】 ・北上川見学「水害について知ろう」6月26日（木） 【4年生・2時間】 ・宮城県防災砂防課出前授業 「知育の土砂災害について知ろう」【4～6年生・1時間】 ○「つなぐ・つながるプロジェクト」事前学習 <ul style="list-style-type: none"> ・発表準備10～11月 【4～5年生・2時間 6年生・3時間】 ○「しめ縄づくりに挑戦」10月16日（木） <ul style="list-style-type: none"> ・地域の老人クラブの方々をお招きして伝統文化を学ぼう。 【3・4年生・2時間】 ○総合防災訓練時の事前学習 11月5日（火） <ul style="list-style-type: none"> ・「地区防災訓練参加時の役割分担や、インタビューすることを考えよう。」【4～6年生・1時間】



伝える	<p>○地区長さん北上川下流河川事務所職員、市職員と一緒に避難の仕方を考える。言葉の学習「はん濫危険水位」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マイタイムラインを地域の方に紹介して、適切な避難の仕方を考えよう」9月26日（金） <p>【4・5年生1時間】</p> <p>○学芸会 10月11日（土）</p> <p>3・4年生防災劇 「大谷地小学校SOS～熱き友情と4色の井～」</p> <p>【3年生・3時間 4年生・2時間】</p> <p>○「つなぐ・つながるプロジェクト」10月23日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生大谷地米の販売、防災クイズ、作文発表、合奏披露 ・5・6年生SDGs関連商品販売 防災学習の発表 ・保護者、お世話になった地域の方、CS委員さんを招待して活動内容を伝える。 <p>○石巻市総合防災訓練 11月9日（日）</p> <p>各地区でのあいさつ・しめ縄の贈呈、各地区の防災訓練参加</p>	   
まとめる	<p>○「マップを完成させよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを整理する。 ・地図上にシールを付けたり、タイトルや吹き出しなど分かりやすいマップになるように工夫をする。 ・グーグルマップにも情報を示し、持ち出せるようにする。【4～6年生・1時間】 	 
見つける	<p>○「学習活動を振り返ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する自己評価、相互評価を行う。Google フォームを活用 ・活動を通して気付いたこと、感じたこと、学んだことなどを、これからの自分にどう活かすかを振り返る。【4～6年生・1時間】 	

5 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- マップ上に過去の訓練や学習内容を時系列で配置したことで、単発の活動に終わらせず、これまでの経験を現在の防災行動に結びつけ、「点」から「線」への学習の体系化を実現することができた。
- 地域住民との対話や伝統文化（しめ縄作り）を通じた交流により、世代間を超えた絆が深まった。これは災害時の相互扶助（共助）の土台となる「地域愛」と「連帯感」を育む貴重な機会となった。
- マップ作りで得た知見を、登下校等の日常的な場面に活かしていくことが肝要である。個々の状況を反映した「マイ・タイムライン」の策定など、一人一人が実際の避難行動を具体的にイメージできるよう、学習をさらに深めていく試みが考えられる。

6 復興・防災マップの取組に係る評価

	項目	評価	評価に係る具体的な姿・根拠等
1	職員の防災意識や技能	A	Google フォームを使って送信された児童・保護者の目線による通学路のリスクを把握することで、教員側がより広い視野で防災教育を捉えるようになった。実践性の高い多様なシチュエーションを想定した訓練や現実の災害に近い状況を意識することができた。
2	児童生徒の防災意識や技能	A	子供たちと地域住民の間で「顔の見える関係」が築かれた。しめ縄と防災活動を組み合わせることで、交流が生まれ、地域文化の担い手としての意識をもつきっかけになった。

A「大いに高まった」 B「やや高まった」 C「変わらない」 D「低下した」

復興・防災マップの取組

石巻市立桃生小学校

1 ねらい

- ①学区内の危険個所や避難場所について理解する。(知識・技能)
- ②学区内で災害にあったときの対応の仕方について自分で課題を立てて調べ、考えたり発表したりすることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ③学区内で災害にあったときの対応の仕方について、主体的・協働的に取り組み、安心・安全な町にしようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2 テーマ

「私たちにできること ～未来の安心・安全な桃生町を目指して～」

3 指導時数 32時間

4 指導の流れ

段階	時数	主な学習活動
つかむ	4	<ol style="list-style-type: none"> ①災害について知っていることを話し合う。 ②東日本大震災について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・図書室の資料や、映像の視聴 教師の体験談等。 ・おうちの人へのインタビュー ・東北大学教授 村山良之先生による講話  <p style="text-align: center;">村山先生による講話</p>
深める	11	<ol style="list-style-type: none"> ③防災マップ作りについて知る。 ④自分たちが住んでいる地区について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・危険個所、避難所、避難経路 ・ハザードマップで桃生地区の災害リスクを確認する。 ⑤震災遺構門脇小学校を見学する。 <ul style="list-style-type: none"> ・被害状況や命を守るための対策、設備等について学ぶ。 ⑥市の防災訓練に参加 <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路、避難にかかった時間、避難手段 避難所の様子（収容人数や備蓄品等）を確認する。 ⑦これまで調べたことを生かし、安心・安全な町にするために必要だと思う防災設備やグッズを考える。  <p style="text-align: center;">震災遺構門脇小学校見学</p>
まとめる	17	<ol style="list-style-type: none"> ⑧マップ作りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「現在の様子を示したマップ」と「安心・安全な未来を館上げたマップ」を作成する。

<p>まとめる</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・マップ作りを通して、学んだことや気付いたこと、これからは生かしたいこと等の感想を書く。 <p>⑨防災マップの発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ向けて、調べたことをグループごとに発表した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>防災マップ作り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>防災マップ発表会</p> </div> </div>
-------------	--	---

5 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- これまで漠然としていた「防災」への意識が、具体的で身近なものへと大きく変化した。
- 大学の先生から専門的な立場でお話を聞くことで、災害（地震や津波）が起こった時に想定されることや、地域特性に応じた備えなどを理解することができた。
- 自分たちの地域で起こり得る災害に対し、防災を「知識」として学ぶだけではなく、「行動」につなげる意識を高めるきっかけとなった。
- 震災遺構の見学を通し、写真や文章だけでは伝わりにくい被災の現実を実感することで、災害は決して他人事ではなく、自分たちの生活と隣合わせにあるものだとして強く実感するようになった。
- 防災マップ作りの過程で、自分の住んでいる地域に改めて目を向けるようになり、危険な場所や避難経路に気付くことができた。これまで何気なく通っていた道や場所も、防災の視点で見ることによって新たな意味を持つようになった。
- 防災を自分事として捉え、日常生活の中で考える姿勢が身に付いた。
- 統合により、扱う範囲が広範囲となり、事前の準備として桃生地区全体について一つ一つ深く掘り下げることは難しかった。
- 地域ごとの地形や人口構成、過去の災害経験の違いなどを細かく反映させるには、情報量や調査時間が不足していた。
- 地域ごとの災害経験談を聞く活動が少なかったため、より身近で具体的な防災へつなげていくことに課題が残った。

6 復興・防災マップの取組に係る評価

	項目	評価	評価に係る具体的な姿・根拠等
1	職員の防災意識や技能	B	桃生地区における災害時の危険箇所や避難行動について理解を深めることができた。
2	児童生徒の防災意識や技能	A	自分事として捉え、避難行動として必要なことや、今から家庭でできる対策などについても考えることができた。

A「大いに高まった」 B「やや高まった」 C「変わらない」 D「低下した」

復興・防災マップの取組

石巻市立万石浦中学校

- ねらい
 - ・防災マップ制作をもとに、地域に対する理解を深めるとともに、地域を見つめ直す機会とする。
 - ・有用な情報を整理してまとめることで、震災発生時に自助・共助・公助の視点に基づいた、適切な行動をとることのできる力を養う。
- テーマ 「つなぐ ～私たちの万石浦～」
- 指導時数 計20時間

4 指導の流れ

(1) 防災マップ作成委員会の立ち上げ

- ・メンバーの確認（3年生7名、2年生15名、1年生5名）
- ・テーマの決定「つなぐ ～私たちの万石浦～」
- ・まちあるきでの調査の確認

生徒会執行部を基盤として、有志での参加を募ったところ、2年生を中心に多くの生徒から協力を仰ぐことができた。作成に携わるメンバーが確定したところで、全員を集めて今後の流れを確認した。この集まりでは、テーマの決定とまちあるきでの調査内容（どういった記録を集めるか、地域の方へどのようなインタビューを実施するか）を決めることに重きを置いたため、それをどのようにまとめていくかという、具体的な方針については確認することができなかったが、これまでにない「目新しいものを創ろう」と生徒たちと意思疎通を図った。



(2) 東北大学災害科学国際研究所、村山先生との打合せ（1回目）

- ・今後の方向性や予定の確認

村山先生、教育委員会の先生方に御来校いただき、今後の方向性や予定に対するご助言をいただいた。この場に生徒会長と作成委員長長の2名の生徒を同席させ、責任感を高めさせるとともに、会議の雰囲気味わわせた。「目新しさ」を表現するために、視点を絞った防災マップを仕上げようと思案したが、具体的な完成像がイメージできず、方向性が定まらずにいた。村山先生より「復興に着目するために、海苔やカキの養殖の方からお話が聞けたら…」というご助言から、この地域ならではのものができるとはならないかというアイデアが湧き、大まかな今後の方針が見えてきた。

(3) まちあるき

インタビューのやり方についての事前指導を行った上で、夏休みにまちあるきを実施した。流留方面、垂水方面、塩富方面と3つの班を編成し、インタビューのほか、安全のための設備や危険箇所、避難場所等を撮影した。



(4) 成果の整理

まちあるきにて、撮影した写真の確認とインタビューで得た情報の整理を行った。写真については、目標としていた枚数を撮影することができたが、インタビューについては、猛暑も相まり、十分な情報を集めることができなかった。

(5) 保護者の方へアンケートの協力依頼

まちあるきでの、成果の整理を行った際に浮かんだ反省点を解決すべく、保護者を対象としたアンケートを実施することとした。アンケートを取るに当たって、その内容を生徒と吟味し、震災時の様子や経験、いまを生きる中学生に伝えたいことなど、質問項目を絞るよう工夫した。夏休み明けに全校生徒の保護者宛てに任意での回答を依頼し、回収後に生徒とともに記載内容を見返して分析を行った。

(6) 東北大学災害科学国際研究所、村山先生との電子メールによる打合せ（2回目）

当初は1枚に全ての情報をまとめる予定であったが、生徒とアイデアを出し合った結果、2011年当時の内容と2025年の現在の内容、復興の様子も含めたこれからの未来を想像した内容の3枚構成で作成することが決まった。このことも踏まえて、現段階での方向性や記事に盛り込んだ方がよい内容についてご助言いただいた。活用できそうな地図やWebサイト、諸機関等についての情報も教えていただいた。



(7) まとめ

村山先生からのご助言を踏まえて、生徒と内容を精査し、最終的なまとめを行った。

5 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○調べたり、まとめたりする中で生徒が意欲的に取り組むようになり、地域理解を深めるきっかけとなった。

●初めて作成するということもあり、計画や見通しをつけるまでにかなり時間を要した。

●地域に寄り添った内容には、まだまだ足りなかった。

6 復興・防災マップの取組に係る評価

	項目	評価	評価に係る具体的な姿・根拠等
1	職員の防災意識や技能	B	本地域を防災的観点から見つめ直すことができたが、集めた情報を適切にまとめきれなかったと感じる。
2	児童生徒の防災意識や技能	B	生徒のアイデアをたくさん取り入れたマップに仕上げることができた。

A「大いに高まった」 B「やや高まった」 C「変わらない」 D「低下した」